

---

先生による禁断の対話式リレー小説

by シー様 & ar

シー様

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

男子生徒BJとシー先生による禁断の対話式リレー小説

b y シー様 & a m p ; B J

### 【Nコード】

N2944J

### 【作者名】

シー様

### 【あらすじ】

シー様とBJの共同作品です。

シー様とBJが、交互にリレーの様に話を繋げました。

この作品は、恐らくボーズラブ、同性愛への偏見を打ち崩します。

リレー開始！ シー先生（前書き）

これは活動報告にて、BJ先生の一言から始まった・・・

~~~~~  
〜BJの発言〜

実は私、ある物に興味があるんです。

m ( | | ) m

それは……

『リレー小説』という物です。

それで、もしよかったら誰か一緒に『リレー小説』なる物をやりませんか？

まあ、これで誰も来なかったら号泣ですけど……

( T | T )

『リレー小説』の作り方は知らないんですけどね。

( ) ( )

そこは先輩に……居ないんだっただ……！！！！！！

( r 。 。 ) r

（東〇神起）風

どう~~~~し~~~~てえええ

君は居なくなってしまうたんだろ~~~~



リレー開始！ シー先生

（シー様の発言）

僕で良ければ参加しましょうか？

と、やってきた僕をB Jはイキナリ刺し殺しました！

「嘘だ！ 嘘だ！ 嘘だーーーーー！！！」

僕は、夢でも見ているのか？

あんなに慕われていた筈のB Jになぜ、殺されなければならなのか？

僕の魂は、屍の上を、フワフワと上昇しながら、思い出を巡らした・

きっと過去の何処かに、B Jに恨みを買ったようなことをしたに違いない。

それを探さなければ、僕は、死んでも死に切れない。

もう死んでるけど……

僕は……

B Jが僕を殺した理由を探る為に、B Jに憑依して取り付いて脳内をジャックしました。

そこで見えたものとは……

(はい。メニューにメニューと繋げてくたさう。)

男子生徒B J（前書き）

先生……

繋げろってこれ私の心理！！

これだとこの活動報告しかないじゃないですか！

普通に投稿した方がいっぱい見てくれると思うんですが……

ちゃんとしたのをやりませんか？

一応、繋げます。

男子生徒 B J

そこで見えたものとは……)

B Jは……

『ヤンデレだった』

「私はもう止められない。先生？……心中……しよ？」

みたいな感じで B J は先生をいつも思っている。

先生は私が好きなんだよね？

嫌いになつたりしないもんね？

だって先生。

この前、私に「好きだー！ー！！」って言ったもんね？

それに私達は……繋がつてるもんね？

・・・赤い糸で・・・ね？

わっ、顔が暑い。

何でだろうね？

私はいつも先生を思っているのに先生は私の所に来てくれない。何で？

先生は私に会いたいけど・・・あの人が邪魔をするんだよね？

あの人ウザいよね？

死んで欲しいよね？

消えて欲しいよね？

わかった。

私が・・・殺してあげる。

良いでしょ？

あの人先生が私に会いたいのを邪魔して会わせてくれないんだよね？

だったら殺そう？

あ、そういえば。

この間、先生の知り合いつて人に会ったよ？

その人に聞いたんだけどね？

あの人先生が好きで近くにいます。

だって、笑っちゃうよね。

その人は私と先生の仲を裂こうとしている悪い人だね。

その人は殺しといたから安心してね？

でも、その人馬鹿だよ。

私と先生は赤い糸で結ばれてるもんね？

切ろうとしたって切れないのに……

先生からあの人に会う筈ないよね？

あ、そうそう。

この前、先生の所に行ったんだよ。

そこで先生とあの人肩を並べて歩いてた様に見えたんだけど違うもんね？

あの人が……あの人が……安心して？  
私が楽にしてあげるから……

## シー先生

「うわーーーーー!!!!!!」

「キモイ！ キモすぎる！！」

僕は、B Jの脳内をジャックしてあまりのヤンデレぶりとカオスに吐き気を模様した。

僕は確かに、誤解を受けるようなことをした。

好きだと何度も連呼したかもしれない。

でも、まさか、それがB Jの心を追い詰めていたとは……

僕が馬鹿だった。

認識が甘すぎたのだ。

B Jのオカシナー面は、小説「俺のハーレム集合っ！！」の内容を注意深く読解していたら気付けたかもしれないのに……

ごめんなさい。

愛する者を自らの手で殺めさせてしまって……

ごめんなさい。

僕が不甲斐ない教師なばかりに……

僕は消えかけていた……

B Jの心理を理解したことで、この世に留まる理由が無くなってい





## シー先生

「やめろ!! B J! もう止めるんだ!

「そんなことをしていたら、君が死んでしまう!!」

僕は、ただ、黙ってB Jが死ぬのを見るしか出来ないのか!?

嫌だ!!、こんなの嫌だ!!!!

神様・・・もう一度、僕にチャンスを下さい。

生まれ変われなくてもいい。

B Jを助けるチャンスを僕に下さい・・・

僕は強く願った。

神に願いが届くように・・・

すると願いが通じたのか、僕の消えかけていた存在は、少しだけ、その姿を取り戻した。

「有り難う神様・・・」

僕は、そう呟くと、もう一度、B Jの脳内にジャックした。

B Jの中に住む、もう一人の彼を倒す為に・・・

B Jの心の中は、荒れ狂っている。

ドロドロ渦巻く荒れた心は、吐き気、痛み、あらゆる負の感覚を統合した物であり、

それが容赦なく僕の心に攻めぎたててくる。

この状況に僕の精神が何時まで耐えられるのか。

いずれにせよ、時間を掛けていたら、B Jの精神も僕の精神も持たないだろう。

苦しくても前に進むしかない。

もう一人のB Jの存在を探して、僕は更に深層心理の奥深くへと突き進むのだった・・・

もう一人の人格B J

私は死ぬ！

先生と一緒に、あの世で一つに成るんだ！

今しかチャンスは無い・・・主を殺せるチャンスは今しか・・・

「B・・・J・・・

「B・J！！

！！！！？？？？

ぜ、せんせい？

私の目の前には先生がいた。



## シー先生とBJ同調！

僕の精神は崩壊寸前であった。

もう、1分も持たない。

「せんせい・・・寂しかった・・・

「ボクは一人で・・・ずっと一人で・・・、表に出られなくて寂しかった。

「だけど・・・そんなボクに向かって先生は好きと言ってくれたんだよ。

僕の中に、孤独に苛まれていたもう一人のBJの感情が流れ込んできた。

僕を一人占めにしたかった思い。

それが一切報われない苦悩。

そうだったものが、もう一人のBJを蝕んでいき狂わせてしまったのだ。

僕はBJと心が同調した・・・

私は先生と心が同調した・・・

先生が生きて欲しいと願うなら私は生きます。

だけど・・・一人じゃさみしい・・・

「大丈夫だ・・・

「目の前に彼が居るだろう。」

「彼が君を真剣に今、見つめてくれている・・・

「だから君は、心配しなくていい。何も考えずにリラックスをするんだ。」

「そうすれば、君達2人は、受け入れ合い、一つとなるんだ・・・

私は・・・

貴方と一つになる・・・

先生、ありがとう。

そしてコメント下さい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2944j/>

---

男子生徒BJとシー先生による禁断の対話式リレー小説

2010年10月11日23時15分発行